

## 浜岡原子力発電所5号機 タービン主油タンクレベルの低下について（続報）

平成20年3月4日

点検結果	油冷却器(B)の伝熱管(総数:1,481本)のうち、油入口付近にある1本の伝熱管に貫通した損傷が確認されました。 また、貫通はありませんが8本の伝熱管に損傷が確認されました。
原因	油の流れが比較的速い油冷却器の油入口付近の伝熱管が振動し、整流板(※1)と繰り返し接触したことにより、伝熱管に損傷が発生したものと推定していますが、次回定期点検で詳細に点検を行います。
対策	損傷が確認された9本の伝熱管について閉止栓を取り付けました。 また、損傷が確認された伝熱管に隣接する10本の伝熱管についても、念のため閉止栓を取り付けました。 次回定期点検で詳細に点検を行い、必要に応じて対策を実施します。

### 【平成20年2月19日にお知らせした内容】

点検について	明日(2月20日)より、隔離中の油冷却器(B)の点検を開始します。 点検結果については、あらためてお知らせいたします。
--------	--

### 【平成20年2月4日にお知らせした内容】

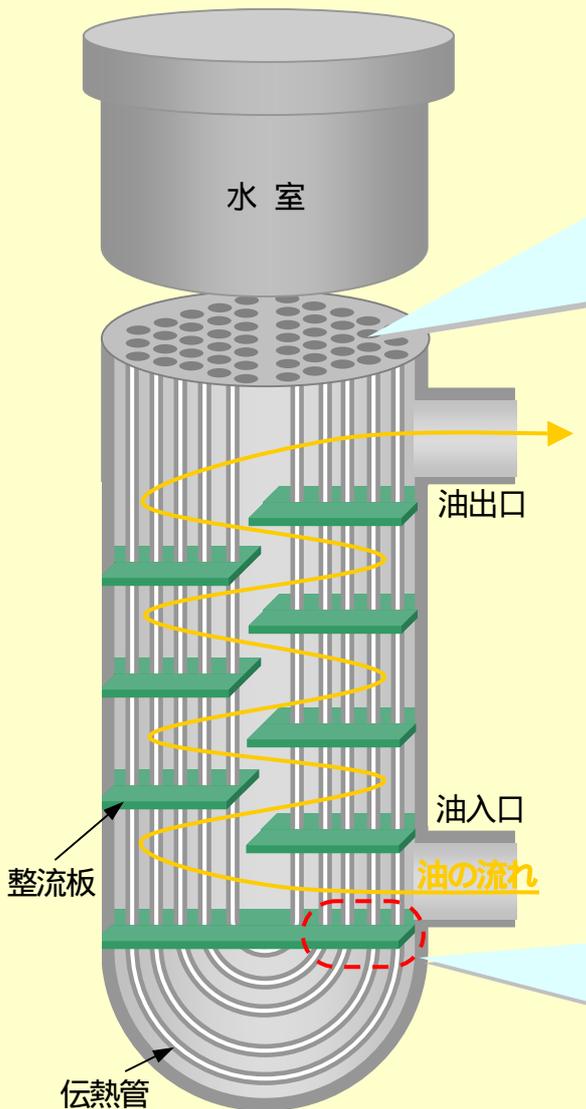
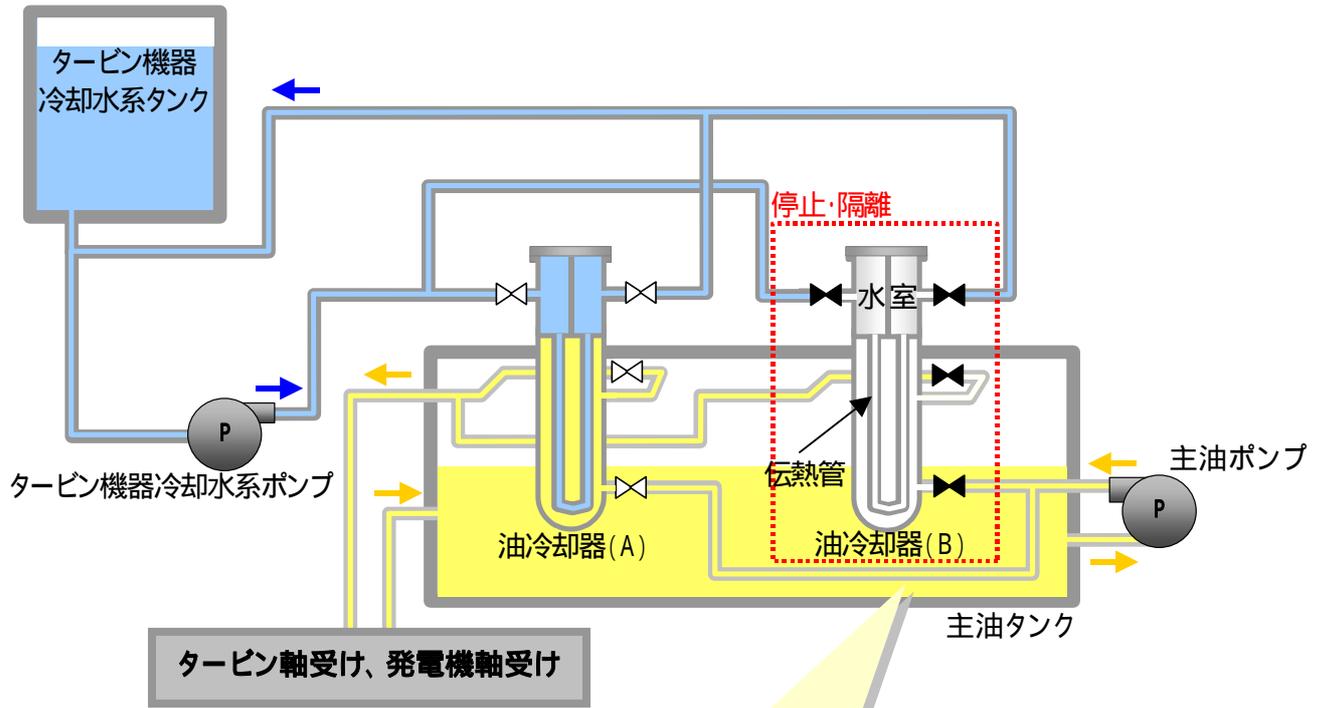
発生号機	5号機(定格熱出力一定運転中) :改良型沸騰水型、定格電気出力126.7万キロワット
発生日	平成20年2月4日
発生時の状況	午前6時18分に、タービンや発電機の軸受けに供給する潤滑油を貯蔵するタンク(主油タンク)の油面低下を示す警報が点灯しました。 関連する機器の確認を行ったところ、タービン機器冷却水系(※2)タンクの水位が上昇していることを確認しました。 このことから、午前11時13分に油をタービン機器冷却水との熱交換により冷却していた油冷却器(B)を停止・隔離し、待機中の油冷却器(A)へ切り替えを実施したところ、主油タンクの油面低下およびタービン機器冷却水系タンクの水位上昇が止まりました。
原因	油冷却器(B)内部で損傷が発生し、圧力の違いにより、油がタービン機器冷却水系へ流れ込んだものと推定しています。 本事象によるプラント運転への影響はありませんが、今後、関連する機器の監視を行います。
放射能の影響	本事象による外部への放射能の影響はありませんでした。
<a href="#">お知らせ基準</a>	運転情報 「表2-20 その他の事象であって、公表が望ましいと判断したもの。」に該当します。

※1 整流板は、油の冷却効率を高めるために、油冷却器内部に取り付けられた板です。

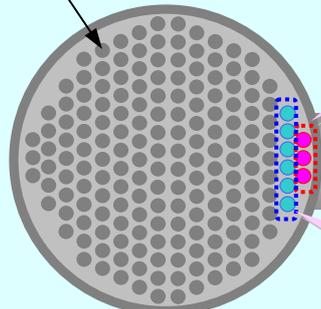
※2 タービン機器冷却水系は、タービン系の機器(ポンプ、モータ、熱交換器等)に冷却水を供給する設備です。

以上

# タービン潤滑油系統概略図



伝熱管(総数:1,481本)



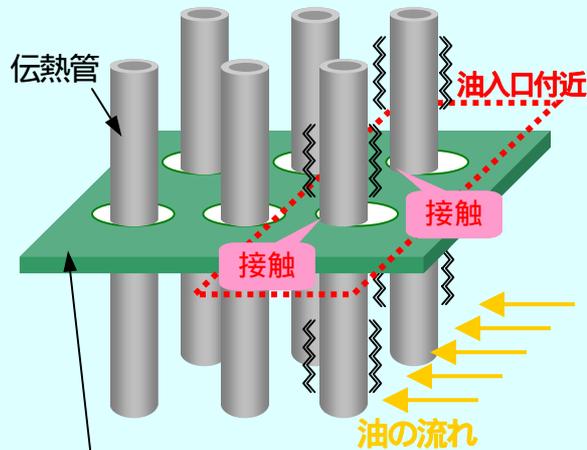
注:上の図は実際の伝熱管の本数とは異なります。

【損傷が確認された伝熱管】

破断して周りの伝熱管を損傷することを防止するため、丸棒を伝熱管内の直線部に挿入し、閉止栓を取り付けました。

【損傷伝熱管に隣接する伝熱管】

損傷伝熱管に近いことから、念のため閉止栓を取り付けました。



油の流れによって、油冷却器の油入口付近の伝熱管が振動し、整流板と繰り返し接触することで損傷が発生したと推定していますが、次回定期点検で詳細に点検を行います。

整流板

油が直線的に流れないように取り付けられ、油冷却器の冷却効率を高めます。